

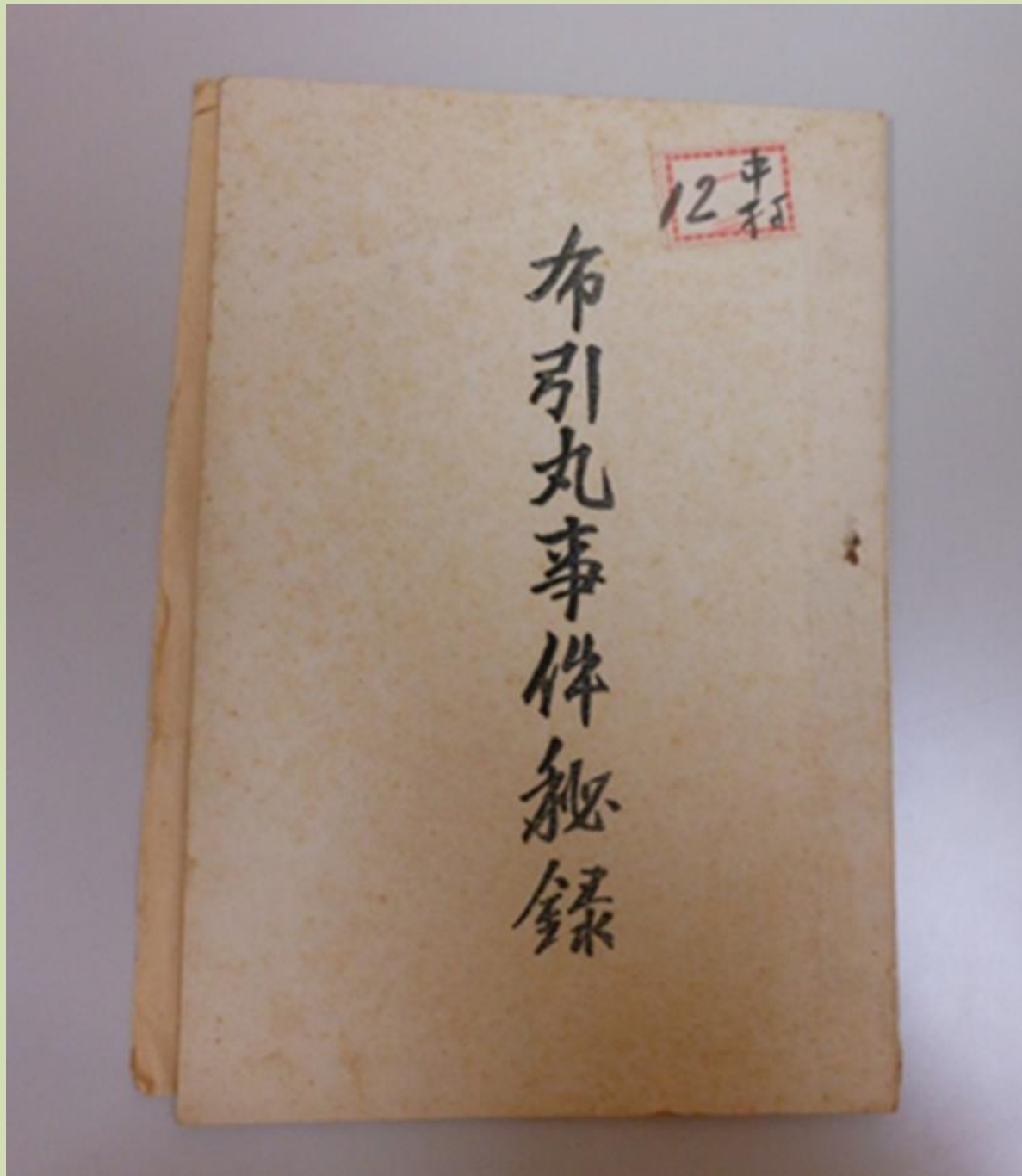
晩年の中村弥六と中国

梅屋庄吉宛中村弥六書簡から

『布引丸事件秘録』復刻理由を掘り下げる

円谷 裕美子

2022年10月30日 中村弥六研究会シンポジウム
(伊那市高遠町総合福祉センター)



伊那市創造館蔵

縦 22 cm

横 15.5 cm

27 ページ

『昭和3年版』

明治四十五年七月三十日

明治四十五年七月三十日

中村彌六

中村彌六

梅屋庄吉殿

梅屋庄吉殿

梅屋 庄吉

小坂文乃『革命をプロデュースした日本人』他



- 長崎生まれの実業家・革命家（1869－1934）
- 14歳、実家の船に密航して上海行決行
- 19歳、アメリカ留学のため乗船した船でコレラが流行り、罹患した中国人が海に投棄される
 - ↳ 欧米人のアジア人に対する差別・偏見への激しい怒り
- 27歳、香港（写真業）で孫文（29歳）と出会う
 - ↳ 「君は兵を挙げよ、我は財を挙げて支援す」
- フィリピン革命軍の外交部門は香港に亡命中
 - ↳ アギナルド、ポンセと「国事を談じ肝胆相照」らす仲
- **1899年2月、ポンセの依頼により孫文を紹介する**
 - ↳ **孫文→宮崎滔天→犬養毅→中村弥六→布引丸事件へ**
 - ↳ **梅屋庄吉は布引丸事件の発端を作り大きな関わりを持つ人物**

布引丸事件顛末秘録

布引丸事件顛末秘録

一 第一 飛 端

明治三十二年某日宴会席上天養毅余ニ語テ日頃比律賓獨立軍首領「アヒナルド」ノ秘書「ボンセ」ナル者渡來シテ橫濱ニ在リ彼レノ目的ハ我が援助ヲ得テ米軍ヲ駆逐スルニアルモ事未ダ緒ニ就カズ若シ擴日彌久セハ米軍ノ威力深ク比島ニ入り遂ニ牢固極ク可カラサルニ至ラン。之ニ對シテ兄何等ノ策カアル幸ニ一臂ノ援助ヲ惜ム勿レ云々、余ハ比律賓ニ関シテ從來一片ノ抱負ヲ有セリ免モ角「ボンセ」ヲ引見センコトヲ約セリ。

一、第二、ボンセ未訪、援助ノ快諾

天養ト約後數日「ボンセ」来リテ刺ヲ投ス。会见其目的ヲ叩キ渡來ノ目的ハ同島獨立ノ為メ我が軍人、兵器、彈藥ヲ得ルニ在ルヲ知リ又同島ノ有志ノ精神、軍備ノ程度、米軍密戰ノ情况等ヲ詳カニシ米軍ノ與ミシ易ク「ボンセ」来リ投シタルハ我が帝國他日ノ為メ天與ナルヲ喜ヒ胸中忽チ風雲ヲ起シ奮テ比島密軍ヲ援助スベキヲ諾約セリ。

布引丸事件顛末秘録の内容

- 第1・発端 第2・ポンセ来訪、援助ノ快諾 第3・諾約ノ由來
第4・兵器彈薬ノ購入 第5・独逸商人「ワインベルゲル」ノ關係
第6・實行ノ部署 第7・布引丸の購入 第8・別動團ノ出發、布引丸の出帆
第9・布引丸上ノ訣別 第10・布引丸ノ沈没、再挙ノ計画
第11・日米國際ノ紛議發生ス 第12・再挙ノ中止 第13・獨立軍ノ
全滅・北清事變の發生・孫文ノ彈薬購入 第14・孫ノ渡臺
第15・革命挙兵ノ中止 第16・犬養ト會見 第17・孫文ト訂交
第18・余ノ輕卒、誤解ノ原因 第19・誤解ノ助長
第20・彈薬ノ爆発
附言

比島軍資清算書

比島軍資精算書

(第一回)

収入	15,5000	「ホンセ」ヨリ受領額
支出	17,9200	
内訳	12,5000 彈藥五万発代價及手数料 7,000 独商手数料 2,8000 布引丸代價 850 船艇仲買人船越手数料 2,300 軍人大名旅費手当 500 船長手許準備金 2,200 石炭代 500 林正文手当 3,800 船賃俸給流産登記料其 他神戸門司長崎ニ於ケ ル諸雜費。	

差引	24,200	不足	二
		孫及中村補充	六
		此ノ外軍人帰京諸手当	1,000 (概算ナリ)
		布引丸遣難道旅手当	3,000 (概算ナリ)
		計	4,000 中村支出

第二回 (再考)

収入	105,000	「ホンセ」ヨリ受領額
支出	104,000	
	62,500	彈藥貳百五十万発代及手数料
	40,000	中止ニ付「ホンセ」へ返却船舶代
	1,000	船舶買入送約金
	500	諸雜費(確實ナラス概数ナリ)
差引	1,000	剩餘

第一回ノ精算不足額中孫君清高某(永樂?)ヨリ
 危万四ヲ得テ補充シタルコト及余ガ七千四ノ支出
 補充ハ記憶スルモ其餘七千四百ノ出處ヲ詳カニセ
 ス孫君ハ必ス記憶スルナラン。

第二回精算ニ於テハ危万四ノ剩餘ヲ生スルモ現金
 ヲ有セス

孫君ノ受領シタル(大倉ヨリ)危万五千四及福本
 ニ君ガ中村ヨリ受領シタル八千四ト計算ハ如何ニナ
 七スヲ適當トナスベキヤハ彈藥價格ヨリ之ヲ減シテ
 34,500トナシ之ヲ爆發額ト見做スヲ以テ正当
 トナスト思考ス。

代
手
丸
人
老
許
炭
文
流
司
神

昭和参年式月六日印刷
本郷区春木町三丁目世二番地
興文社

昭和参年式月六日印刷
本郷区春木町三丁目世二番地
興文社

昭和参年式月六日印刷
本郷区春木町三丁目世二番地

興文社

高遠で引き継がれた『秘録』と中村弥六研究

- 明治45年 7月30日 梅屋庄吉宛に『秘録』が書かれる
- 昭和 3年 2月 6日 **中村弥六による復刻（昭和3年版）**
北村勝雄氏が『秘録』をもらう
- 昭和17年 7月 7日 **矢澤勝治郎氏による再復刻（昭和17年版）**
北村勝雄・埋橋桑人による中村研究
- 平成 6年 2月 1日 **森下正夫氏による高遠町図書館叢書化（平成6年度版）**
- **中村文彦氏研究史料・高遠町歴史博物館へ寄贈**

参考：北村勝雄「伊那に於ける中村家」『信濃』3月号、信濃史学会、1944年

北村勝雄「伊那に於ける中村家（承前）」『信濃』4月号、信濃史学会、1944年

北村勝雄「布引丸事件と中村弥六」『伊那路』上伊那郷土研究会、1966年4

埋橋桑人「政治家としての中村弥六」『伊那路』上伊那郷土研究会、1985年

埋橋桑人「学者としての中村弥六」『伊那路』上伊那郷土研究会1985年

森下正夫『布引丸事件の真相 衆議院議員・林学博士 中村彌六の比律賓独立運動支援活動』高遠図書館、1994年

森下正夫『中村弥六物語』高遠町、1997年

昭和3年版『秘録』復刻の理由

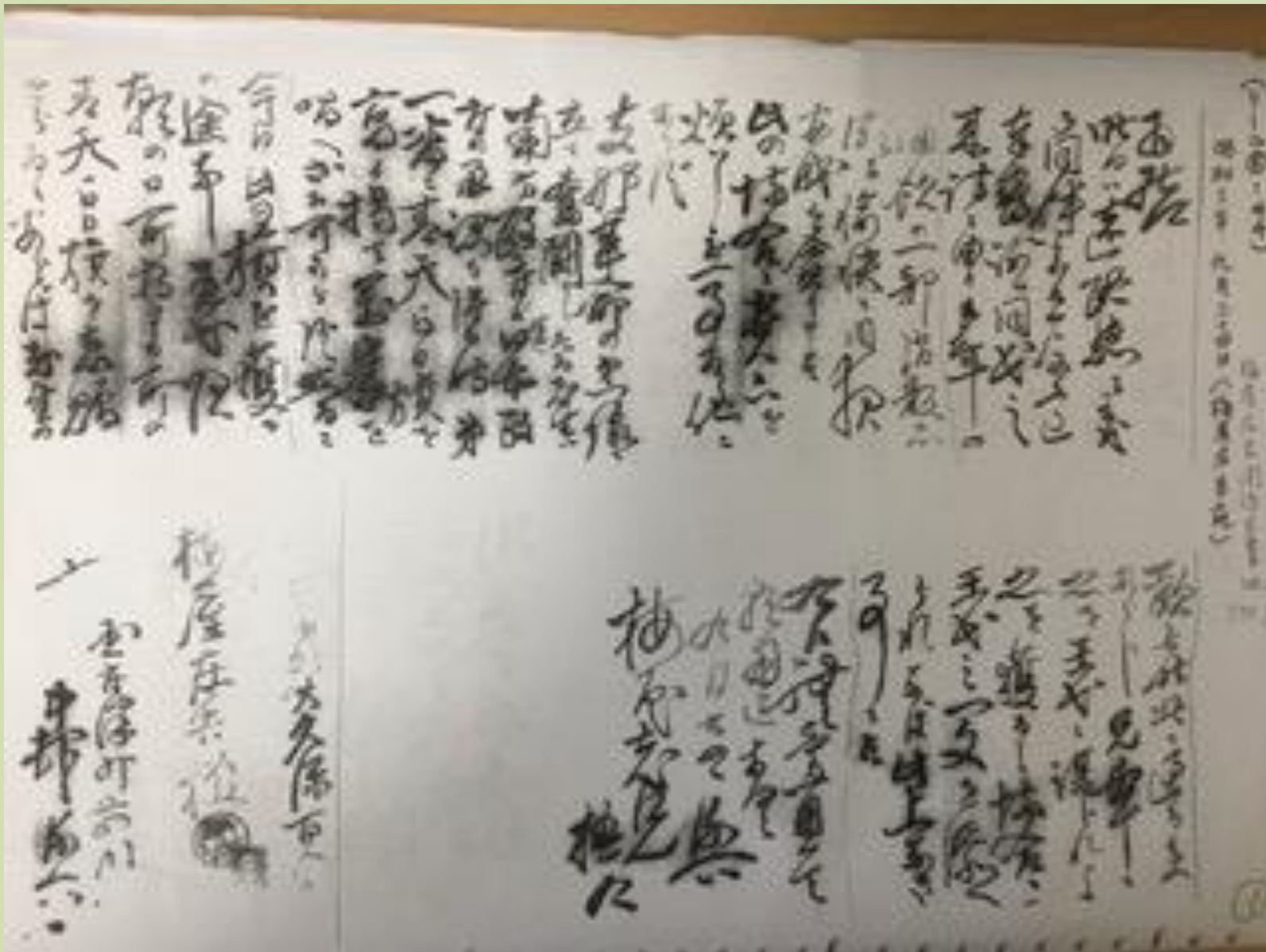
『秘録』の復刻理由

円谷「『布引丸事件秘録』再考—昭和三年版を中心に」『史叢』2019年より

- ①列強による植民地争奪の時代の終焉
- ②公開して迷惑を掛ける盟友たちがすでに亡くなったこと
- ③家族や友人、弟子たちに事件の真相を伝えておきたい
- ④『秘録』を公開して公の場で犬養毅との論争を希望

（相馬由也「秘録を公にするにあたりて」『人の噂』昭和5年7月号より）

梅屋庄吉宛中村弥六書簡 1928/9/24



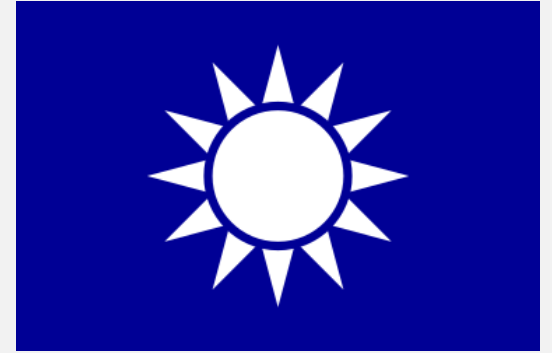
「梅屋庄吉関係文書」に残る中村書簡

「保存書簡」

- 1) 昭和3年 1月 1日 年賀状
- 2) 昭和3年 1月20日 葉書（近日上京して打合せ）
- 3) 昭和3年 9月24日 手紙（王大禎同伴での国府津訪問の礼状）
- 4) 昭和3年10月25日 手紙（中野の料亭での会合に対する礼状）
- 5) 昭和4年 2月14日 手紙（布引丸遭難者の遺族調査の進捗状況）
- 6) 昭和4年 4月12日 手紙（南京へ・蒋介石への手紙・孫文へ漢詩）
- 7) 昭和4年 4月30日 手紙（南京へ・布引丸遭難者遺族調査結果）

昭和3年9月24日付書簡

—梅屋の国府津訪問への礼状—



- 過日は遠路はるばる王氏をご同伴下された厚意に感謝します。
- 王氏の訪問により長年心を塞いでいたことが少し消散し、その夜はお酒を飲みました。
- 「**支那革命**の第一線」にたつて「奮闘したる」自分としては「南方政府」が「近日」「日本政府の承認」を得る時に一番に「**青天白日旗を高く掲て**」「万歳」を唱えたいので、「王氏」が帰国する時に、彼が「所持する」青天白日旗を譲ってもらえるよう頼んでほしい。そして、そこに「王氏」の「一文」を添えてほしい。

国府津の中村弥六自宅庭にて撮影（梅屋庄吉アルバム）



昭和三年
九月二十三日
北野奈川、
国府津
中村氏自宅ニ
トシテ本朝セル
天根氏夫妻ト
共ニ憩安ク夕ノ
訪問ニ由リ記念
中村氏夫妻并
孫ニ
向ニ心算ニ持テ
合孫時
下田文一氏

昭和3年10月25日付書簡

—中野の寿々喜屋での会合に対する礼状—

- ▶ 私が「三十年前ニ支那革命の第一線」で力を尽くした真相はむなしく「政争」の中に葬り去られ、もはや潔白を証明することもできないであろうと思っていた。
- ▶ 先日のような席上で真相をご紹介くだされ、それは私個人の雪辱になるばかりでなく、沈没した同志及船員が遠からず青天白日旗の下に祭られることで私の胸に鬱々としていた愁いは一度に吹き飛んだ。

中野の寿々喜屋での宴会

(梅屋庄吉アルバム)



昭和4年4月12日付書簡

(布引丸遭難者名簿・蒋介石への手紙・孫文へ漢詩)

- ➡ 南京ではさぞかし旧友との会合し、苦楽を語りあっておられることでしょう。羨ましい限りです。
- ➡ 蒋介石に「東亜の意見書」を書きましたが、拙文のまま同封したので、不明の点があれば梅屋さんから説明をお願いしたい。
- ➡ 「布引丸遭難者と遺族の名簿を作成中なので、南京ご滞在中に国民政府と是非とも協議してほしい。
- ➡ 孫文の墓前に捧げる漢詩を同封。
- ➡ 4月28日名簿の完成→30日付書簡で送付。

梅屋庄吉宛中村弥六書簡から

① 蒋介石の中国再統一に呼応して中村の汚名を雪ごうとする梅屋の動き

→梅屋の布引丸事件への関与の大きさ→中村の名誉回復により**布引丸事件を中国革命史の中に正しく位置付けようとする意図**→香港での「梅屋の人脈」+中村が布引丸事件の主体→梅屋と中村の関係は事件後昭和3年まで継続か。

② 布引丸遭難者が青天白日旗の下での慰霊されることへの期待

→孫文慰霊祭での布引丸遭難者の慰霊は中村の悲願→中村は遭難者とその遺族名簿を作り梅屋を介して国民政府に提出→**フィリピン革命は中国革命（アジア革命）の一部**であるという考え方が貫かれている。（その後、受理）

③『秘録』復刻の**第一の理由**→①布引丸事件を中国革命史の中に正しく位置付けるため、②布引丸遭難者を慰霊し栄誉を与えるための**ツール**とするため→昭和3年に復刻。

『秘録』 明治45年の謎

明治45年（布引丸事件の13年後）

中国での出来事

→ 明治44年10月辛亥革命

→ 明治45年1月1日 孫文が南京で中華民国の建国宣言

→ 中国革命成功！

→ 梅屋はフィリピン革命軍へ軍資金の収支決算を渡そうと考えた。

→ 梅屋と中村にフィリピン革命軍援助は中国革命の流れの中にあるという認識があったことを実証。中国革命はアジアの革命を指し、その成功はポンセが目指したものであった